

「やさしい日本語」の活用理由を再考する



弘前大学人文学部 教授
佐藤 和之

はじめに

この原稿は、とくに外国人住民を対象に活動したり、緊急性の高い情報を迅速に伝えようとしている皆さんに向けて書いています。

次にこの原稿では、過去20年で日本が経験した大規模地震に共通する重要な3課題について、それらを解決する表現法と伝達手段とその信頼性について論じます。

結論として、大規模災害下の外国人に情報を的確に伝えられる「やさしい日本語」とその効果について概略します。

紙幅の都合から詳細を示せませんでしたので、注を多くして根拠に案内しています。詳しく知りたいときは注を参照ください。

外国人被災者支援と阪神淡路大震災からの学び

神戸市は外国人居住者の多い都市ですが、1995年の阪神淡路大震災（以下「阪神大震災」）では、災害下での外国人対応の遅れや外国語での情報の少なさが大きな社会問題となりました。^{*1} その後の新潟県中越地震（以下「中越地震」）や東日本大震災では、阪神大震災からの学びを活かした外国人への支援活動が発達しました。なかでも東日本大震災での多文化共生マネージャー全国協議会の「災害時多言語支援センター」（以下「タブマネ支援」）や仙台市国際交流協会の「仙台市災害多言語支援センター」（以下「仙台支援」）の迅速な設置と支援は象徴的です。タブマネ支援は10言語、仙台支援は4言語で行われましたが、そ

れぞれの一つが「やさしい日本語」でした。「やさしい日本語」は外国人が理解しやすい外国語の一つとしてその役割を担ったことになります。

それでは、仙台支援で「やさしい日本語」が使われた理由は何だったのでしょうか。

これには阪神大震災以来の中越地震にも東日本大震災にも共通し、しかし改善しにくい理由が3点ありました。1点目は、大規模地震が起こった後の行政は72時間のあいだ、被災者への支援活動ができない状態になるということ。2点目は、同じ72時間のあいだに外国人対応のボランティアは被災地に入れないということ。そして3点目は、1点目と2点目の結果からですが、それがたとえ英語であっても、72時間のあいだ、情報は伝わらない状況にあるということでした。そうなる理由をここでは説明しませんが、詳細は佐藤（2007）^{*2}を参照ください。

災害下の外国人住民の言語権を保障することば

日本には、さまざまな国籍を持つ人が住んでいますので、地震が起きると、いまや外国人も日本人と同じ状況になります。また彼らのほとんどが、自分の安全を確保するための情報を得にくいという外国人ならではの事情もあります。

2014年の今も、地震直後に地震の発生を伝えたり避難を促す情報は、ラジオもテレビも、また避難所に張り出されるリアルタイムの掲

示も日本語です。外国人の多くは避難のための情報や避難所での生活、たとえば食事の配給時間や毛布の支給といった最低限の情報さえ入手困難で、通訳ボランティアが立ち上がるまでさまざまな情報から隔絶されます。

行政もボランティアも外国人支援ができない状況にあって、外国人はそれでも日本人と同じように生き延びねばなりません。そのとき、外国人にそれぞれの国のことばで情報を伝えられる術があったら理想的です。しかし災害直後の混乱期に、被災地の公共機関が複数の外国語で情報を伝えることは不可能です。東日本大震災のとき、被災地に住んでいた外国人の国籍は160カ国以上でした。被災市町村それぞれが、日本人と同じ避難や復旧や生活に関わるさまざまな情報を、多言語で伝えられないのはいまでもありません。

この20年、外国人を地域住民に抱える自治体は、このことへの対応を検討してきました。

ここで注意すべきは、外国人住民数の多寡とこのことは比例しないということです。外国人住民の数が少ないほど、行政はそのために人員を割けませんし、外国人ボランティアも支援に入りませんので、逆に地域の負担は大きくなります。そのような状況にあって外国人住民の尊厳を守り、最低限の生活を保証する情報を迅速に伝えられることばが「やさしい日本語」ということです。

40都道府県での「やさしい日本語」活用目的

2014年7月から、大阪市営地下鉄は駅のアナウンスや掲示物に使われることばをやさしい日本語にしました。毎日新聞は「大阪市営地下鉄：伝統の用語改めやさしい日本語に」の見出しで伝えました^{*4}。この取り組みに先立つ2012年、大阪市は地域防災計画に、やさしい日本語を含む多言語化の整備を記しました^{*5}。

やさしい日本語を活用している自治体・団体(西日本)



東京都も同じ年にやさしい日本語での情報提供を『東京都地域防災計画』^{*6}に書き込んでいます。

このような取り組みが進む前の2007年、総務省が「多言語化に当たっては複数の外国語を用いるほか、やさしい日本語を用いることも考えられる」(要約)旨の指針を示します^{*7}。外国人住民が多い自治体では、プラスワンの外国語として「やさしい日本語」を導入しようとしているわけです。

先に「やさしい日本語」は、中小規模の都市でも効果を発揮すると述べました。17万都市の青森県弘前市が中越地震以前の2007年に、「やさしい日本語」で伝えることを『弘前市地域防災計画』^{*8}で決めたという先例もあります。

それでは、日本各地で「やさしい日本語」はどのように活用されているのでしょうか。注9のアドレスにある図(13ページの図)を見てください。日本各地の活用例を地図にしたものです^{*9}。防災情報や防災計画、避難誘導標識、注意喚起情報、生活情報をさまざまな媒体で伝えています。2014年8月時点で40の都道府県が外国人への情報伝達手段として広く活用していました。

「やさしい日本語」文法

ところで「やさしい日本語」とはどんなことばかですが、弘前大学の社会言語学研究室と災害が起こったときの外国人のための「やさしい日本語」研究会は、阪神大震災以来の外国人相談窓口の設立経過や、災害下で情報が得られずに困窮した外国人の日本語能力から、発災直後は一人でバスに乗ったり買い物ができたりする程度の外国人が理解する日本語の話しことば(ラジオやテレビ、防災無線、市や消防の広報車)を使って避難所まで誘導し、その後通訳ボランティアが対応するまでは、やはり同程度の日本語の書きことば(掲示物)によって情報を伝えるのがもっとも効

果的なことと、その時間はおおむね発災からの72時間であることを提唱しました。たとえば避難所への誘導は次のように表現します。

避難所^{ひなんじょ}くみんなが^に逃げる^に ところ>は安全^{あんぜん}です。避難所^{ひなんじょ}は だれでも^{つか} 使う^{つか}ことができます。外国人^{がいこくじん}も 使う^{つか}ことができます。避難所^{ひなんじょ}に 行って^い ください。ぜんぶ^{むりょう} 無料^{むりょう}です。お金^{かね}は ありません。避難所^{ひなんじょ}くみんなが^に逃げる^に ところ>でできる^しことを 知らせ^します。

- ①水^{みず}や 食べ物^{たべもの}や 情報^{じょうほう}を もらう^{もら}ことができます。
- ②トイレ^{トイレ}に 行く^いことができます。
- ③寝^ねる 場所^{ばしょ}も あります。

この「やさしい日本語」は、災害時に外国人が的確な行動を起こせる表現にする文法12項目から成っています。私たちはそのための「やさしい日本語」ガイドライン^{*10}を作りました。その規則の一つが、下表に示したような簡単な語に言い替えることです。

言い替え例

普通の日本語	「やさしい日本語」
給水車 →	水を くばる 車
迂回する →	違う 道 を 行く
津波 →	津波 <高い 波>
デマ →	うその 話
渋滞する →	混んでいる

次に「やさしい日本語」化のためのガイドラインにそった放送用案文を560文用意しました^{*11}。発災直後から180分までに伝える案文を時間軸に沿って配列しています。防災無線や市町村役場の広報車、コミュニティFMなどで使います。これらは『外国人を助けるためのマニュアル』^{*12}に収めました。

放送用案文を読むときの速さを1分あたり400拍^{*13}としました。通常のニュース文(NHK)を読む速さは440~490拍ですから少しゆっく

ちゅうい
注意して ください



長い時間 座っていると
血が 流れにくく なります
急に 死ぬことが あります

(作った 日) 年 月 日 (作った ところ) 66-1
作成 弘前大学人文学部社会言語学研究室、弘前大学医学部公衆衛生学教室

すること

血が 流れるように

1. 2. 3. のことを して ください

1. 水を 飲んで ください
1日に 1リットルから
2リットル 飲んで ください
2. とまどき 手や 足を 動かして
ください
3. とまどき 足を マッサージして
ください



(作った 日) 年 月 日 (作った ところ) 66-2

た基準を設けました^{*15}。外国人に行動を起こしてもらうための情報の配列です。

「やさしい日本語」の有効性を検証する

「やさしい日本語」で伝えた情報を受け取る外国人住民ですが、東京に住む外国人の85%が「やさしい日本語」だと「理解できる」と答えていま

す。^{*16} 仙台のブラジル人女性は「ゆっくり優しい日本語なら、理解できる。『これから、やさしいにほんごでながします』を聞くと安心」と震災を振り返って発言しています。^{*17}

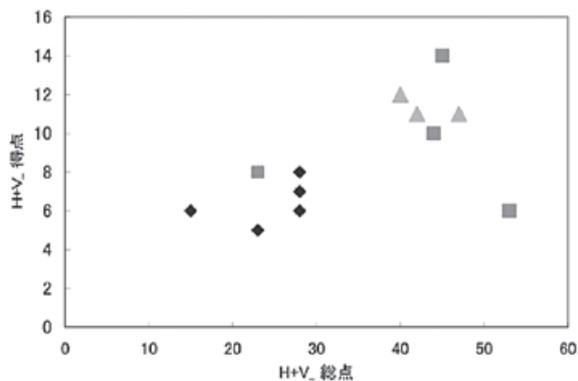
このことを実証する結果があります。日本語での簡単な日常会話ができる程度の外国人に「やさしい日本語」は有効かどうかを検証する実験をしました。A. 読みことば（放送）とB. 書きことば（掲示物）で災害情報を伝えるときの、「やさしい日本語」と「普通の日本語」による効果の違いを比較したものです。漢字圏と非漢字圏出身者の割合を同じにし、また日本語の学習歴も同じになるような2つ

りした読み方になります。

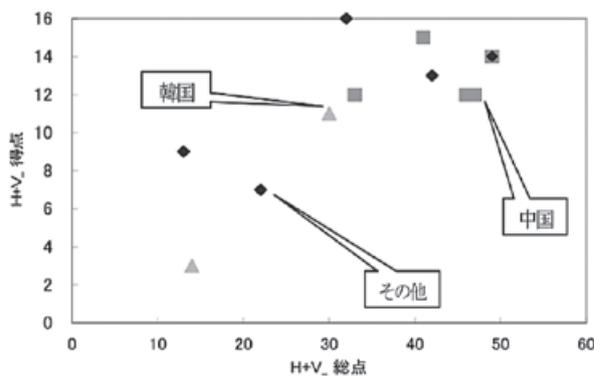
掲示物の作り方も規則化しました。原初的ですが、日常の情報を伝えるのに掲示物としても有効です。東日本大震災を経験した外国人の調査でも、「ポスター形式であれば読まれる可能性が高まる」や、「大切なことを伝えるためには、文字が少なく分かりやすいポスターを掲示するのが効果的」との回答がたくさん得られました。外国人にとって、聞き逃すことのない効果は大きいと言えます。

そこで、たくさんの掲示物が氾濫する中で、外国人の目を引くもの、そして日本語だけど読んでみようという気にさせる情報の書き方と表現について、前述のガイドラインに沿っ

聴解+読解(得点×総点) ふつうの日本語



聴解+読解(得点×総点) やさしい日本語



馬場康維2007による

横軸は日本語能力を知るためのテストの正解数。右に行くほど日本語能力は高い
縦軸は、指示された行動の達成数。上に行くほど達成数は高い

の外国人集団に分けました。

その結果、漢字圏の外国人にとっても、非漢字圏の外国人にとっても「やさしい日本語」の方が指示を理解でき、また日本語能力が低い人にも「やさしい日本語」で伝えることは有効なことが明らかになりました。^{*18}

災害情報を適切・的確に伝えるために

「やさしい日本語」はこのように、外国人によく伝わります。私たち日本人が想像しやすい文でいうと、小学校3年生の国語の教科書で使われている文とよく似ています。^{*19}

外国語に親しんだ人でも、情報を翻訳するときは誤訳に注意しますが、「やさしい日本語」の場合、その情報が適切かどうかをすべての日本人が確認できますから、近隣住民との助け合いの中で責任ある情報を伝えられます。東日本大震災で避難所運営をした町会長さんが「(外国人に) 避難所での炊き出しや注意事項を周知することが難しかった。(中略) 大声で避難者に呼びかけることで日本語でもどうにか伝わることも実感した」と言っています。^{*17}

また、災害直後で対応できる外国語の翻訳者がいない、あるいは翻訳・通訳者が不足しているといったときでも、「やさしい日本語」でなら対応可能です。

このような「やさしい日本語」の情報を誰もが作れるよう、「やんしす」という「やさしい日本語」化支援システムを開発しました。「やんしす」をパソコンに組み込むと、災害下において、ネットにパソコンが繋がっていなくても「やさしい日本語」文法に合致した表現になっているかチェックすることができます。^{*20}

東日本大震災からの学び

日本に住む外国人の多くは、何となくでも日本語が理解でき、「やさしい日本語」だとさらによく分かるという話は、東日本大震災以降に調査した福島^{*21}や京都^{*22}でも同じでした。さ

らに日本に残った外国人が異口同音に言ったことは「残ることを決めるに足る十分な情報を得られたか」でした。情報の受け手である外国人は日本語でも大丈夫だから情報が欲しいと感じているのですから、情報を発信する側は外国人には外国語でという呪縛から解放され、「やさしい日本語」でいち早く伝えるべきです。

もう一つ、外国人に「やさしい日本語」で情報を伝える大切な目的があります。外国人住民に情報を迅速に伝えることで、彼らに被災地の力になってもらうという目的です。東日本大震災を経験して、被災地には「災害発生時には体力が衰えている高齢者などを若いペルー人が担いで避難することもできる。ただ弱者なのではなく、社会貢献ができることも知ってもらいたい」「日本に住んでいるから日本の復興に協力しないといけないと思う」といった声がたくさんあがりました。同じ社会に住む外国人だから、住民として日本人弱者の支援や地域の復興に力を発揮する仲間になってくれるということです。そのときの日本人に、そして外国人に共通のことばが「やさしい日本語」です。災害下での彼らは日本人と一緒にあって、日本語に不慣れな外国人、あるいは母語を活かした海外とのインターフェースとしての役割を担ってくれます。

この考えは、内閣府の、「『やさしい日本語』は速やかで正確な情報提供が可能なことから、通常時のみならず災害発生時等にも大きな効果を発揮することが期待されており、内閣府のみならず全国的にも普及させる必要がある^{*23}」との一文に反映されています。「やさしい日本語」で緊急時の情報を的確に伝えられれば、外国人住民はもはや要援護者でなく、援護者として頼れる住民になるからです。

適切な情報は被災者の心の負担を軽減する

再言ですが、外国人にはそれぞれの外国語で情報を伝えることが最善です。しかしそれが不可能なら、まずは「やさしい日本語」で日本人と同じ情報を伝えたいと思います。

日本人、外国人にかかわらず、人間は適切な情報が得られたらパニックになりません。的確な行動をとることができます。だから外国人という理由だけで、外国語で伝えようとせず、緊急時だからこそ日本語を可能な限り短く、ゆっくり、そしてやさしい語に言い換えて伝えることが大切です。適切な情報は被災外国人の心の負担を軽減します。

「やさしい日本語」の研究は、言語研究者だけでなく、さまざまな分野の研究者と弘前大学の学生、行政、医療、コミュニティFM、NPOなどからの参加者による協働でなされていることを申し添えます。

【引用文献・引用html】

- *1 外国人地震情報センター編（1996）『阪神大震災と外国人』明石書店
- 松田陽子・他（1997）『阪神淡路大震災における外国人住民と地域コミュニティ』神戸商科大学
- *2 佐藤和之（2007）「被災地の72時間—外国人への災害情報を『やさしい日本語』で伝える理由」『やさしい日本語』が外国人の命を救う』「やさしい日本語」研究会
- *3 法務省。災害救助法適用市町村の外国人登録者数について（2014年8月15日）http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00019.html
- *4 2014年7月24日毎日新聞夕刊
- *5 大阪市『大阪市地域防災計画』（平成24年7月版）
- *6 東京都防災会議『東京都地域防災計画（第14次修正）』（平成26年7月版）
- *7 総務省（2007）『多文化共生の推進に関する研究会報告書』
- *8 弘前市防災会議『弘前市地域防災計画』（平成22年2月修正版）
- *9 弘前大学社会言語学研究室「やさしい日本語を活用している自治体・団体」（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ8syakaitekihyouka.top.html>
- *10 弘前大学社会言語学研究室（2013）『増補版「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>

- *11 弘大社言研（2013）「放送用時系列案文」（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/hosokuanbun-jikeiretu.pdf>
- *12 弘大社言研（2013）『増補版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/3.11manyuaru.html>
- *13 弘大社言研（2014）「災害時に外国人にも情報が伝わる放送の読み方スピードの検証結果」（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/onseikennsyoukeka.html>
- *14 かながわ国際交流協会（2012）『外国人コミュニティ調査報告書』かながわ国際交流財団
- *15 弘大社言研（2013）「新しくポスターやピラを作る」（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-pdf/2-keizibutu/151-184poster-tukuru.pdf>
- *16 地域国際化推進検討委員会（2012）「東日本大震災時の状況に関する調査」『災害時における外国人への情報提供』東京都生活文化局都民生活部
- *17 仙台国際交流協会（2012）『『多文化防災』の協働モデルづくり報告書』
- *18 馬場康維（2007）「実験による検証」『『やさしい日本語』が外国人の命を救う』やさしい日本語研究会
- *19 弘大社言研「やさしい日本語」におけるやさしさの基準（2014年8月15日）<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJyasashisa-kijyun.html>
- *20 東北大学大学院工学研究科伊藤彰則研究室「やんしす」（2014年8月15日）<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>
- *21 福島県国際交流協会（2013）『東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関わる外国出身等県民アンケート調査』福島県
- *22 京都府国際センター（2013）『京都府外国人住民に向けた防災についてのアンケート調査報告書』
- *23 内閣府（2013）「やさしい日本語の活用に関するPlain English（平明な英語）についての調査」WIPジャパン（2014年8月15日）http://www8.cao.go.jp/teiju/research/h25/plain_english/pdf_index.html

著者略歴

佐藤 和之（さとう・かずゆき）

社会言語学。社会構成員が混在化する地域の言語変容研究が専門。「やさしい日本語」研究もその一環。地域社会に迎えたさまざまな国からの住民を情報弱者にしないための減災研究に取り組む。2000年に「やさしい日本語」研究で消防庁長官賞と村尾学術奨励賞（神戸に貢献のあった研究に与えられる賞）を受賞。「やさしい日本語」に関わる2014年度主要論文は、「外国人被災者の心の負担を軽減する『やさしい日本語』であるために」『わかりやすい日本語』2014年、『『やさしい日本語』による情報伝達支援と方言研究』『21世紀の方言使用』2014年、『『社会』を識別指標にする言語学』『社会言語科学の源流を追う』2014年 社会言語科学会